2014年5月15日

株式会社　大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長　好本達也　殿
J.フロント　リテイリング　株式会社
代表取締役社長　山本良一　殿

DOCOMOMO　Japan
代表　松隈　洋

大丸心斎橋店本館の保存・再生要望書

拝啓　　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20世紀の建築遺産の価値を認め、その保存を訴えることを目的の一つとする、国際的な非政府組織DOCOMOMO（Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of Modern Movement ：モダン・ムーブメントに関わる建物と環境形成の記録調査および保存のための組織）の日本支部です。

さて、貴社におかれまして大阪市中央区心斎橋筋に所在する大丸心斎橋店本館を建て替える計画を進めておられるよし、新聞等の報道で聞き及んでおります。

本会は大丸心斎橋店本館を、その建築史的な重要性によって、2003年に日本を代表する歴史的に価値のある近代建築100選の一つとして選出いたしております。以下に詳述いたしますように、大丸心斎橋店本館は、傑出した意匠を有する歴史的建造物として重要であるとともに、御堂筋の景観を形成する枢要な要素であり、また昭和戦前期の「モダン大阪」を代表する建築物として地域の歴史を語る上で欠くことのできない文化的資産であるといえます。ぜひとも、この貴重な建築物の保存を進めていただきますよう、お願い申し上げる次第であります。

1）意匠的価値

現在の大丸心斎橋店本館の建設は1921年（大正10）に第1期工事として心斎橋筋に面した南側の部分から開始され、1925年（大正14）の第2期、1932年（昭和7）の第3期工事を経て、1933年（昭和8）の第4期工事で主要部分は竣工し、翌1934年の大宝寺通り側増築で外観が完成します。この間、1933年には梅田・心斎橋間の地下鉄の開通を迎え、1937年（昭和12）には御堂筋が難波まで全通します。

1945年（昭和20）の大阪大空襲で5階以上が損壊し、47年にこの補修をおこない、1954年以降、7、8階部分の増築が進められ、さらに1965年から74年までの間に外周の余地部分への増築がおこなわれて、現在の姿となります。被災と増改築を経ているとはいえ、主要街路から見る立面は当初の意匠をよく継承しており、4階以下については、テラコッタをはじめとしてオリジナルの材料の多くが保たれています。

室内意匠においては吹抜の閉鎖など多少の改変はあるものの、1階から3階までについては、玄関ホールのステンドグラス、1階および3階天井、階段室、エレベーターホールま

わりなどにほどこされた装飾がよく保存されています。

様式としては、第1期・2期工事による心斎橋筋側立面は、当時「近世復興式」と称された、ルネサンス様式のモチーフを近代的にアレンジしたものです。玄関上部の半円アーチにはめ込まれたテラコッタによる孔雀のレリーフは見るものを圧倒する密度を誇ります。また、低層部は石張りを模してベースメント（基壇）としてデザインされ、その上端には高欄状の浮き彫り装飾が施されます。

第3・4期による御堂筋側立面は、心斎橋筋側立面以上に3層構成を明確に示し、低層部は花崗石とテラコッタ、7階部分はテラコッタによって明白色に仕上げる一方、3階から6階までは褐色のスクラッチタイルで重厚に納めています。様式としては、ゴシック様式を基調として、垂直線を強調します。なかでも南西隅の塔屋「水晶塔」はこのネオ・ゴシック様式の特色をよく示します。一方、細部装飾においては1920年代後半に世界的に流行したアール・デコの影響がはっきりうかがえ、直線や三角形のモチーフが駆使されています。特に低層部と最上階のテラコッタ装飾は「大大阪」の目抜き通りを飾るにふさわしい華やかさと品格を備え、他に例を見ない完成度を誇ります。

室内意匠でも、多面体と多角形をモチーフとするアール・デコ装飾が駆使されます。平面的な装飾にとどまらず、照明を組み込むことで立体的な演出を展開しています。繊細にして華麗なアール・デコのデザインは東京都庭園美術館（旧朝香宮邸）と双璧をなすものと評価できます。

2）ウィリアム・メリル・ヴォーリズの作品としての価値

W.M.ヴォーリズは米国出身の建築家で、1907年に最初の建築設計をおこなって以降、戦前期だけで約 1,400 件の建築設計を手がけました。彼は滋賀県近江八幡市を拠点としたことから、おのずから関西にその作品は多いですが、日本全国、さらには東アジア諸地域に広がっています。近年、とみに再評価の気運が高まっている建築家であります。

ヴォーリズはまず住宅作家として盛名を得、住宅改良運動の旗手の 1 人として活躍します。その作品は文化財指定・登録されているものだけでも、駒井邸（1927年、京都市）、大丸ヴィラ（1932年、京都市）、近江岸邸（1935年、堺市）、旧マッケンジー邸（1940年、静岡市）など枚挙にいとまがありません。他の建築類型では学校建築が注目されています。関西学院（1929年、西宮市）、神戸女学院（1933年、西宮市）、梨花女子大学（1935年、ソウル市）、旧豊郷小学校（1937年、滋賀県）、大阪女学院（1951年、大阪市）などは施設全体を手がけたもので、その力量をよく示します。

ヴォーリズは企業社屋、商業建築の設計も積極的におこなっており、旧大同生命ビル（1925、大阪市）、東華菜館（1926年、京都市）はよく知られるところです。どちらも米国建築の手法を巧みに導入したものとして知られます。先代の大丸心斎橋店（1917年）はヴォーリズがはじめて手がけた百貨店建築でした。ここでヴォーリズはそれまで日本の百貨店建築では例がなかったゴシック様式を採用して注目を集めました。これが火災で焼失したのち、すぐに再建に着手したものが現在の本館です。現本館での華麗な装飾やテラコッタの駆使は上に挙げたビルやレストランでの経験をさらに発展させたものということができます。ヴォーリズの足跡を通して、歴史様式のなかにモダン・デザインが浸透し、大衆社会における新しい美意識が形成される過程を見ることができます。大丸心斎橋店本館はその

大きな里程標といえます。

なお、大丸心斎橋店本館の意匠設計で重要な役割を発揮したのは佐藤久勝というヴォーリズ事務所の所員です。彼は建築の専門教育を受けないまま入所し、設計実務を通して建築を学んだという人物です。やがて才能を開花させ、「霊想霊腕の天才」と謳われますが、工事途上の1932年に急逝します。こうした人物的エピソードも含め、ヴォーリズ建築、さらには関西の近代建築を考える上で重要な位置を占める建築と云うことができます。

3）地域史的・景観的価値

心斎橋筋は大阪において屈指の目抜き通りでありました。大丸は1726年（享保11年）に現在の位置に開業し、今日に至っているわけです。1925年の御堂筋拡幅計画を受けて、西側への増築が企画されることになります。したがって、この建築物は、伝統ある商店街と真新しいブールヴァールの双方にふさわしい表情を求められてきました。

先に述べた御堂筋側立面の綿密なデザインは、幅24間（約44メートル）という新街路に向かい合うべく練り上げられたものといえます。南隣はそごう百貨店が店舗を新築しますが、その設計を担当した村野藤吾は、ヴォーリズ設計の大丸を意識して、通りに対して大丸とは異なるアピールをなさねばならぬという気概のもとに、その構成主義的意匠を案出したと伝えられます。周辺環境の刷新が建築の変貌を次々と呼び起こす経緯を見ることができます。

御堂筋開削に当たっては、大阪市当局は景観の整備に配慮し、大規模社屋の誘致に努めたといわれます。長く百尺の軒高で揃った整斉たる街並みを誇ってきましたが、高さ規制の緩和と建築物の更新とによって、不安定な状況を呈しつつあることは否めません。ここにおいて、大丸心斎橋店本館は御堂筋の景観の原点を保持しています。視覚的な意味だけでなく、老舗が地域とともに発展してきた軌跡を示しているという点においても景観の規範となる重要な意味を担っているということができます。

貴社が心斎橋店本館の維持保全とその魅力の顕彰に努めてこられたことはよく存じております。ここまで申し上げたことは、貴社におかれましては、十分にご理解のことと存じます。どうか今後とも心斎橋店本館のかけがえのない価値を後世に継承していただきますよう、ご高配をたまわりたく存じます。

なお、本会は本建築の保存に関して、技術的支援など可能な範囲でご協力させていただきたく考えておりますことを申し添えます。

敬具

2014年5月15日

J.フロント　リテイリング　株式会社
代表取締役社長　山本良一　殿
株式会社　大丸松坂屋百貨店
代表取締役社長　好本達也　殿

DOCOMOMO　Japan
代表　松隈　洋

大丸心斎橋店本館の保存・再生要望書

拝啓　　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20世紀の建築遺産の価値を認め、その保存を訴えることを目的の一つとする、国際的な非政府組織DOCOMOMO（Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of Modern Movement　：モダン・ムーブメントに関わる建物と環境形成の記録調査および保存のための組織）の日本支部です。

さて、貴社におかれまして大阪市中央区心斎橋筋に所在する大丸心斎橋店本館を建て替える計画を進めておられるよし、新聞等の報道で聞き及んでおります。

本会は大丸心斎橋店本館を、その建築史的な重要性によって、2003年に日本を代表する歴史的に価値のある近代建築100選の一つとして選出いたしております。以下に詳述いたしますように、大丸心斎橋店本館は、傑出した意匠を有する歴史的建造物として重要であるとともに、御堂筋の景観を形成する枢要な要素であり、また昭和戦前期の「モダン大阪」を代表する建築物として地域の歴史を語る上で欠くことのできない文化的資産であるといえます。ぜひとも、この貴重な建築物の保存を進めていただきますよう、お願い申し上げる次第であります。

1）意匠的価値

現在の大丸心斎橋店本館の建設は1921年（大正10）に第1期工事として心斎橋筋に面した南側の部分から開始され、1925年（大正14）の第2期、1932年（昭和7）の第3期工事を経て、1933年（昭和8）の第4期工事で主要部分は竣工し、翌1934年の大宝寺通り側増築で外観が完成します。この間、1933年には梅田・心斎橋間の地下鉄の開通を迎え、1937年（昭和12）には御堂筋が難波まで全通します。

1945年（昭和20）の大阪大空襲で5階以上が損壊し、47年にこの補修をおこない、1954年以降、7、8階部分の増築が進められ、さらに1965年から74年までの間に外周の余地部分への増築がおこなわれて、現在の姿となります。被災と増改築を経ているとはいえ、主要街路から見る立面は当初の意匠をよく継承しており、4階以下については、テラコッタをはじめとしてオリジナルの材料の多くが保たれています。

室内意匠においては吹抜の閉鎖など多少の改変はあるものの、1階から3階までについては、玄関ホールのステンドグラス、1階および3階天井、階段室、エレベーターホールま

わりなどにほどこされた装飾がよく保存されています。

様式としては、第1期・2期工事による心斎橋筋側立面は、当時「近世復興式」と称された、ルネサンス様式のモチーフを近代的にアレンジしたものです。玄関上部の半円アーチにはめ込まれたテラコッタによる孔雀のレリーフは見るものを圧倒する密度を誇ります。また、低層部は石張りを模してベースメント（基壇）としてデザインされ、その上端には高欄状の浮き彫り装飾が施されます。

第3・4期による御堂筋側立面は、心斎橋筋側立面以上に3層構成を明確に示し、低層部は花崗石とテラコッタ、7階部分はテラコッタによって明白色に仕上げる一方、3階から6階までは褐色のスクラッチタイルで重厚に納めています。様式としては、ゴシック様式を基調として、垂直線を強調します。なかでも南西隅の塔屋「水晶塔」はこのネオ・ゴシック様式の特色をよく示します。一方、細部装飾においては1920年代後半に世界的に流行したアール・デコの影響がはっきりうかがえ、直線や三角形のモチーフが駆使されています。特に低層部と最上階のテラコッタ装飾は「大大阪」の目抜き通りを飾るにふさわしい華やかさと品格を備え、他に例を見ない完成度を誇ります。

室内意匠でも、多面体と多角形をモチーフとするアール・デコ装飾が駆使されます。平面的な装飾にとどまらず、照明を組み込むことで立体的な演出を展開しています。繊細にして華麗なアール・デコのデザインは東京都庭園美術館（旧朝香宮邸）と双璧をなすものと評価できます。

2）ウィリアム・メリル・ヴォーリズの作品としての価値

W.M.ヴォーリズは米国出身の建築家で、1907年に最初の建築設計をおこなって以降、戦前期だけで約1,400件の建築設計を手がけました。彼は滋賀県近江八幡市を拠点としたことから、おのずから関西にその作品は多いですが、日本全国、さらには東アジア諸地域に広がっています。近年、とみに再評価の気運が高まっている建築家であります。

ヴォーリズはまず住宅作家として盛名を得、住宅改良運動の旗手の1人として活躍します。その作品は文化財指定・登録されているものだけでも、駒井邸（1927年、京都市）、大丸ヴィラ（1932年、京都市）、近江岸邸（1935年、堺市）、旧マッケンジー邸（1940年、静岡市）など枚挙にいとまがありません。他の建築類型では学校建築が注目されています。関西学院（1929年、西宮市）、神戸女学院（1933年、西宮市）、梨花女子大学（1935年、ソウル市）、旧豊郷小学校（1937年、滋賀県）、大阪女学院（1951年、大阪市）などは施設全体を手がけたもので、その力量をよく示します。

ヴォーリズは企業社屋、商業建築の設計も積極的におこなっており、旧大同生命ビル（1925、大阪市）、東華菜館（1926年、京都市）はよく知られるところです。どちらも米国建築の手法を巧みに導入したものとして知られます。先代の大丸心斎橋店（1917年）はヴォーリズがはじめて手がけた百貨店建築でした。ここでヴォーリズはそれまで日本の百貨店建築では例がなかったゴシック様式を採用して注目を集めました。これが火災で焼失したのち、すぐに再建に着手したものが現在の本館です。現本館での華麗な装飾やテラコッタの駆使は上に挙げたビルやレストランでの経験をさらに発展させたものということができます。ヴォーリズの足跡を通して、歴史様式のなかにモダン・デザインが浸透し、大衆社会における新しい美意識が形成される過程を見ることができます。大丸心斎橋店本館はその

大きな里程標といえます。

なお、大丸心斎橋店本館の意匠設計で重要な役割を発揮したのは佐藤久勝というヴォーリズ事務所の所員です。彼は建築の専門教育を受けないまま入所し、設計実務を通して建築を学んだという人物です。やがて才能を開花させ、「霊想霊腕の天才」と謳われますが、工事途上の1932年に急逝します。こうした人物的エピソードも含め、ヴォーリズ建築、さらには関西の近代建築を考える上で重要な位置を占める建築と云うことができます。

3）地域史的・景観的価値

心斎橋筋は大阪において屈指の目抜き通りでありました。大丸は1726年（享保11年）に現在の位置に開業し、今日に至っているわけです。1925年の御堂筋拡幅計画を受けて、西側への増築が企画されることになります。したがって、この建築物は、伝統ある商店街と真新しいブールヴァールの双方にふさわしい表情を求められてきました。

先に述べた御堂筋側立面の綿密なデザインは、幅24間（約44メートル）という新街路に向かい合うべく練り上げられたものといえます。南隣はそごう百貨店が店舗を新築しますが、その設計を担当した村野藤吾は、ヴォーリズ設計の大丸を意識して、通りに対して大丸とは異なるアピールをなさねばならぬという気概のもとに、その構成主義的意匠を案出したと伝えられます。周辺環境の刷新が建築の変貌を次々と呼び起こす経緯を見ることができます。

御堂筋開削に当たっては、大阪市当局は景観の整備に配慮し、大規模社屋の誘致に努めたといわれます。長く百尺の軒高で揃った整斉たる街並みを誇ってきましたが、高さ規制の緩和と建築物の更新とによって、不安定な状況を呈しつつあることは否めません。ここにおいて、大丸心斎橋店本館は御堂筋の景観の原点を保持しています。視覚的な意味だけでなく、老舗が地域とともに発展してきた軌跡を示しているという点においても景観の規範となる重要な意味を担っているということができます。

貴社が心斎橋店本館の維持保全とその魅力の顕彰に努めてこられたことはよく存じております。ここまで申し上げたことは、貴社におかれましては、十分にご理解のことと存じます。どうか今後とも心斎橋店本館のかけがえのない価値を後世に継承していただきますよう、ご高配をたまわりたく存じます。

なお、本会は本建築の保存に関して、技術的支援など可能な範囲でご協力させていただきたく考えておりますことを申し添えます。

敬具